

特集

質的統合法の現在

グラウンデッド・セオリーとの
比較を中心に考える

2008年、筆者は本誌にて「科学的な質的研究のための質的統合法(KJ法)と考察法」と題する特集を2号にわたり企画した。以来約10年が経過し、質的統合法を用いた研究は各学会等でもみられるようになり、看護界でも浸透してきているように思われる。そこで本号特集では、今後のさらなる進展に向け、質的統合法が現在どのような形で発展的に展開しているかをみることにした。

そのための1つの方法として、グラウンデッド・セオリー、特にB.G. Glaserの提唱したクラシック・グラウンデッド・セオリー(以下、クラシックGT)との比較を試みることにした。質的統合法の源流であるKJ法には、「発想法(abduction)」という大きな根幹がある。またクラシックGTには、「発見(discovery)」「浮上(emergence)」という概念がある。両者ともに、創造性をそのダイナミズムの土台に有している点で共通するものがあり、両者を比較することで、質的統合法の実際や意義が改めて浮き彫りになるのではないかと考えた。これが、本企画のきっかけである。

特集では、ともに川喜田氏から学び、一方で、川喜田研究所を経て質的統合法を確立した山浦晴男氏と、また一方で、英国でKJ法研修を開催するなど、その普及に努める野村俊夫氏、そして、KJ法を端緒に、長年にわたりクラシックGTを探索し原著の翻訳も行なっている小島通代氏をまじえ、座談会を行なうとともに論考を寄稿いただいた。加えて、質的統合法の活用により成果を得た研究2本と、KJ法を精神療法の分野で用いて名高い丸山晋氏によるコラム、さらに、英国におけるKJ法と質的研究の展開と広がりを紹介する形で特集を構成している。クラシックGTとの比較検証とともに、質的統合法の特徴や看護研究における有用性や課題を探りつつ、質的統合法への理解がさらに深まることを願う。

註：「質的統合法(KJ法)」の名称に関しては、川喜田研究所で商標登録している「KJ法」の商標権を侵害せず、研究者等の第三者に混乱を生じないようにすると同時に、山浦氏の経歴に基づき、その出典を明らかにして創案者を尊重したいという主旨から、「質的統合法」という機能名称に加え、「KJ法」という出典名称を括弧書きで併記する方式をとっている。併せて、「KJ法」に準拠しながらも、山浦氏の25年以上にわたる実践経験に基づく技法上の精密化とオリジナルの教授法の開発や進化・発展の面から、このような名称としている。以降本特集では、この「質的統合法(KJ法)」の表記を用いる。

企画：正木治恵 千葉大学大学院看護学研究科教授